『経営に役立つヒント』

令和六年七月一日　第二百五十四号

社長に必須の座右の書として何を奨めるかと問われれば、『宋名臣言行録』と『貞観要』の二冊は外せないと思います。貞観政要は、「帝王学の書」と言われ、宋名臣言行録は、「人物学の書」と言われます。

今回は、宋名臣言行録の中から、社長の実務に役立つ、切れば血の出るような、幾つかを紹介したいと思います。

宋名臣言行録は、宋の太祖(趙匡胤)・太宗・真宗など八朝に仕えた九十七人の名臣との問答集です。特に知名度の高い人物には、趙普・曹彬・呂蒙正・王安石・司馬光らがいます。

宋名臣言行録に流れる思想には、一、地位にある者は、人を動かすだけの徳性を身につけなければならないこと。二、一語を知って自らの生活信条とし、実践躬行を以て本物とすること。三、利害得失で、その信念を変えることなきまでに至ること。四、身を屈すれども道を屈せず、信念を以て使命に努めること。五、人を知り、人を用い、後世に伝えること。即ち、人を見る明を養い人材育成をしていくこと。

その生き方や考え方は、現在の乱れた世相を革新し、経営を正しい方向に導く指針と勇気を与えてくれる名著です。

明治陛下が御愛読され、徳川家康が学んだだけのことがあります。我々も拳拳服膺して参りましょう。

「われ誠に無能なり。ただ一能あり。善く人を用うるのみ」　呂蒙正

社長の職務は、適材適所に人を配置すること。その為には、日頃から常に社員の長所を探しメモし、人事異動を的確にしていくこと。

「人主少年なれば、常に四方の艱難を知らしむ。然らずば、血気まさに剛にして意を声色犬馬に留めずば、土木・甲兵・禱祀のこと作らん」　李沆

そこまで、細かいことを言わなくても、と思う若い二代目に、老い先短いからこそ敢えて言うのが、本当の臣下の役目である。諫言の士を持つこと。

「酒を飲むは人の常情なり。君を欺くは臣子の大罪なり」　魯宗道

人情にも通じ、且つ、真髄は寸分も外さない心構えを教えている。

「士は天下の憂いに先立ちて憂い、天下の楽しみに後れて楽しむべし」　范仲淹

自分のことは後回しにして、常に天下国家の一歩先を見ること。

「人を知るは、帝堯も難しとするところなり」　司馬光

人物評価は、聖王と呼ばれた堯でも難しいとされる。ならば、凡夫の我々は。

今月のポイント

学ぶに如かざるなり